

思考・判断・表現することを繰り返す言語活動を通して、

コミュニケーションを楽しむ外国語の学習

I 外国語活動・外国語科研究の方向性

1 主題設定の理由

外国語教育においては、小学校から高等学校まで、「コミュニケーションを図る資質・能力の育成」を一貫する目標としており、段階的な資質・能力の育成を目指しています。特に小学校では、中学校以降における外国語教育の素地・基礎づくりという重要な役割を担っています。新学習指導要領では、新たに「思考力、判断力、表現力等」に関する目標が加わり、言語活動を通じた指導の充実を図ることが求められています。

前研究では、言語活動を充実させる学習づくりを進めたことにより、児童は、相手や目的、場面等を理解しながら安心してコミュニケーションを図ることができ、学習意欲を持続しながら語句や表現を身に付けることができました。一方で、児童を学習の主体とするための指導計画や、児童へのフィードバックの在り方、自分の思いや考えを深めることができるような自己評価の活用方法について、改善する必要があることが分かりました。

本校では、平成25年から4年間、文部科学省の研究開発学校に指定され、全学年で外国語教育に取り組んできました。全校児童へのアンケート調査からは、英語を話すことに楽しさを感じたり、もっと話せるようになりたいと感じたりする児童が多く、英語に慣れ親しむ経験を低学年から積み重ねてきた成果と捉えることができます。前研究の課題も踏まえつつ、本校の児童のよさを更に伸ばすためには、次のことが重要であると考えます。

- 児童が思いや考えをもちながら、十分にコミュニケーションを図ること。
- 自分の思いや考えを伝えられなかったことを振り返りながら改善できるようにすること。
- 話す楽しさや自分の思いや考えが伝えられた喜びを感じられるような活動を工夫すること。

全体研究では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」を主題としています。それを受けて、外国語活動・外国語科における探究する児童の姿を、「コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高め、自律的な学びを進めることで自信をもってコミュニケーションを図る児童」と押さえました。

以上の、外国語活動・外国語科として求められることと、本校の研究の成果と課題を踏まえ、研究主題を「思考・判断・表現することを繰り返す言語活動を通して、コミュニケーションを楽しむ外国語の学習」と設定しました。本研究を通して、語句や表現等を使いながら身に付けたり、他者と思いや考えを伝え合ったりすることを往来しながら資質・能力を育む言語活動について明らかにしたいと考えました。そして、その言語活動を通して、資質・能力を育むとともに、コミュニケーションそのものを楽しむことができる学習を目指したいと考えました。

2 目指す児童の姿とその具体

コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高め、自律的な学びを進めることで、自信をもってコミュニケーションを図る児童

「コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高める」とは、実際に英語を使った活動から、既習や未習の語句や表現等をどのように使っていくのか見通したり、活動に対する思いをもったりする姿です。

「自律的な学びを進める」とは、「既習の語句や表現等をもっと使えるようになりたい。」「新たな語句や表現等を身に付けて活動してみたい。」など、自ら外国語の学習に積極的に取り組む姿です。

「自信をもってコミュニケーションを図る児童」とは、語句や表現等を実際のコミュニケーション場面で使うことで身に付け、生きて働く言葉を獲得する姿です。

II 研究内容の具体

1 コミュニケーション場面における気づきを促す単元構成

コミュニケーションの場面における気づきは、言語活動を通して言語や文化を体験的に理解するきっかけとなり、単元全体の活動への意欲を高めることにもつながると考えました。ここでは、新たな語句や表現等との出会い方や、既習の語句や表現等を継続的に使うことができるような単元構成について、明らかにしました。

《CAN-DOリストを基に具体化した指導計画》

- 本校が作成したCAN-DOリストを基に、具体的な場面例や語句や表現を指導計画に位置付ける。

《既習の語句や表現等の定着を図る学習活動の設定》

- 単元を通して、既習の語句や表現の定着を図るために、Warming Upや1単位時間における学習活動を工夫する（Small Talkの設定、「Let's Listen」などのデジタル教材の活用等）。

《活動のイメージを具体的にもたせるための活動の設定》

- 単元の導入時に教師（HRTとALT・JTE）によるDemonstrationを行ったり、アンケート結果や作品などを提示したりして、単元全体やゴールへのイメージをもたせる。

2 自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫

自信をもってコミュニケーションを図るためには、語句や表現等を実際のコミュニケーション場面で使うことが大切です。「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」について、無理のない活動や繰り返しのある活動を設定することで、効果的な指導ができると考えました。

《語句や表現に慣れ親しむ毎時間の言語活動》

- 毎時間の学習活動について、言語活動化する視点で見直し、意味のある文脈で語句や表現を確実に身に付けることができるようにする。
- 単元の中に、単元のゴールの活動に近い形（語句を限定する、やり取りする対象を少人数にするなど）の活動を設定する。

《語句や表現に慣れ親しむことを支えるICT機器の活用》

- 既習や新出の言語材料から、自分の表現したいことに合わせて、絵カードや音声データ等を自由に使えるようにする。
- 言語活動に必要な、自分が本当に伝えたいことの情報（写真や動画など）を、単元を通して蓄積できるようにする。



3 コミュニケーションの楽しさにつなげる評価

児童が自らの学びを振り返り、コミュニケーションの楽しさを感じたり、次時へのめあてを立てたりすることは、意欲的に学習する態度につながると考えました。ここでは、児童が学びを振り返るための工夫について明らかにしました。

《言語面での気づきを促すフィードバック》

- 語句や表現等を適切に使っている姿を例示し、やり取りのよいところなどに気付かせる。モデルとなる児童をタブレット端末で撮影し、映像を全員で見返り振り返る。
- 実際に教師が児童とやり取りを行い、誤りの訂正（リキャスト）や発話を促す誘導によるフィードバックを行う。表現に対する児童の思いを受け止めながら、即時的に行う。

《自律的な学びを進める児童を育てる評価（振り返り）》

- 授業のねらいを基に振り返りの視点を設定し、その中から「頑張ったこと」を選択する。また、その根拠となることや次の学びにつながる視点について記述する。

＜2年次研究の重点＞

- ・自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫
- ・自律的な学びを進める児童を育てる評価

Ⅲ 実践事例

4年生実践 『Unit 9 This is my day. ぼく・わたしの一日』

実践のテーマ：ICT機器を活用し、必要な情報を選択することで、日課に関する語句や表現に慣れ親しみ、「Who am I?クイズ大会」に向けた練習に取り組む学習


1 研究授業のねらい

本単元では、これまでに学習してきた言語材料に加え、日課に関する語句を扱い、短い話のおおよその内容を捉えることや、自分の日常生活を発表する力を身に付けることをねらいとしました。

単元の導入では、世界の子供たちの一日の様子から、世界の様々な文化や生活習慣を捉えたり、自分の生活習慣に目を向けたりする場面を設定しました。また、教師の日常生活場面を例に「Who am I? クイズ」を取り入れることで、自分の日常生活を発表したりクイズにしたりする活動に意欲をもたせました。

2時間目に、小学校外国語活動教材「Let's Try! 2」の活動を生かし、単元のゴールとなる言語活動を「『Who am I? クイズ～誰の一日?～』をしよう!」としました。一単位時間内の言語活動やそれを支えるICT機器の活用方法を工夫し、児童が語句や表現に繰り返し慣れ親しみながら学びを進められるようにしました。

2 単元の指導計画（5時間扱い）

《外国語活動・外国語科において目指す児童の姿》			
英語を使った活動から課題を見つけ、活動への意欲を高め、自信をもってコミュニケーションを図ろうとする姿			
《本単元のCAN-DOリスト》			
【聞くこと】	◆No.1	日課や短い絵本の英語を聞いて、意味や内容を理解することができる。	
【話すこと(発表)】	◆No.6	自分の一日の日課について、発表することができる。	
時	学習内容・活動内容【CAN-DOリストの語句・表現】	◆CAN-DOリストの具体的な場面例	ICTの具体的活用例
①	<p>学習の見通しをもとう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4年生のUnit 1を振り返る。 ◆世界の子供たちの一日の生活を知る。 ◆短い絵本の英語を聞き、話のおおよその内容を知る。 【語句】日課(wake up, wash my face, 等) 【表現】I wake up. / I wash my face. 等 	<p>【聞】◆No.1</p> <p>教師によるLet's Try! 2掲載の絵本「This is my day.」を聞く。</p>	<p>Webページを活用し、世界の学校の登下校の様子や、生活習慣について知る。</p>
②	<p>日課に関する語句を身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆短い絵本（「This is my day.」）の英語を聞き、話のおおよその内容を知る。 ◆Who am I?クイズを体験する。 <p>外国語活動のしめくくり、「Who am I?クイズ大会」をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆日課に関する語句や表現に慣れ親しむ。 【語句】日課(wake up, wash my face, 等) 【表現】I wake up. / Who am I? 等 	<p>【聞】◆No.1</p> <p>教師による「Who am I?クイズ」の問題を聞き、答えを考える。</p>	<p>日課に関する語句や表現の練習に必要な資料（絵カード、発音練習用の動画など）を配付する。</p>
③ (本時)	<p>「Who am I?クイズ大会」に向けて、練習しよう。～語句や表現を増やそう～</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆短い絵本の英語を聞き、話のおおよその内容を知る。 ◆日課に関する語句や表現に慣れ親しむ。 ○使える語句や表現を増やす。 【語句】日課(wake up, wash my face, 等) 【表現】I wake up. / Who am I? 等 	<p>【聞】◆No.1</p> <p>教師によるLet's Try! 2掲載の絵本『Good Morning』（ダイジェスト版）を聞く。</p>	<p>自分の発表したいことに合わせて、発表に必要な写真等を準備する。</p>
④	<p>「Who am I?クイズ大会」に向けて、練習しよう。～クイズに必要な表現～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の一日について、絵や写真を基に話す。 ◆クイズの出題時や回答時に必要な語句や表現に慣れ親しむ。 【語句】日課(wake up, wash my face, 等) 【表現】I wake up. / Who am I? 等 Good! / Nice! / That's right! 等 	<p>【話(発)】◆No.6</p> <p>「Who am I?クイズ」の出題や回答の練習をする。</p>	
⑤	<p>「Who am I?クイズ大会」をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「Who am I?クイズ」をする。 ○新たに知った友達のことや、友達の話と自分を比較して気付いたことを交流する。 【語句】日課(wake up, wash my face, 等) 【表現】I wake up. , I wash my face. 等 	<p>【話(発)】◆No.6</p> <p>「Who am I?クイズ大会」をする。</p>	<p>必要に応じて、写真等を提示しながら「Who am I?クイズ」を出題する。</p>

3 本時の活動

Title	4年 Unit 9 This is my day. (3 / 5)	
目 標	「Who am I? クイズ」に向けた練習を通して、日課に関する語句や表現に慣れ親しむ。	
語句・表現 (単元)	未習	日課 (wake up, wash my face, brush my teeth, など), I ~ (日課) .
	既習	挨拶, 日課 (~ timeなど), 状態, 気持ち, 動作, 教科
準 備	プロジェクター (大型モニター), タブレット端末	
学習過程	学 習 活 動	研究との関わり・留意点
Warming Up 5分	1 Greeting (1 min.) 2 Let's chants (2 min.) 3 Small talk (2 min.) ・既習の表現 (I wake up at 5:30など) を使ったやり取りをする。	
聞く・まねる (技能習得) 20分	4 Today's goal (2 min.) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「Who am I?クイズ大会」に向けて、練習しよう。～語句や表現を使ってみよう～ </div> 5 Let's listen 1 (10 min.) ～P.34-40 「This is my day.」～ ・デジタル教材 (またはALT/JTEによる読み聞かせ) を聞き、話のおおよその内容を知る。 ・話を聞きながら、その内容を表しているカードを選ぶ。 6 Let's listen 2 (10 min.) ～「Doubt game」～ ・身近な人物の一日について教師の話聞き、誤った情報があると判断したら「Doubt!」とコールする。	◇語句や表現に慣れ親しむ毎時間の言語活動 研究視点2 ◇語句や表現に慣れ親しむことを支えるICT機器の活用 研究視点2  ◇語句や表現に慣れ親しむための言語活動 研究視点2
使う (技能習得) 15分	7 Activity (15 min.) ・自分の一日の生活について、発表で使えるような表現 (既習) を確認する。 ・朝・昼・夜の時間帯で1つずつ表現したいことのカードを選ぶ。 ・自分で作ったカードの表現を練習する。 ※途中でカードを入れ替えてもよい。	◇語句や表現に慣れ親しむことを支えるICT機器の活用 研究視点2 
振り返り 5分	8 Looking back (4 min.) ・「～の語句 (表現) が使えるようになった。」 ・「～さんの朝の様子を聞いたら、自分と同じだということが分かった。」 ※7で使ったカードを自分で用意した写真に置き換えてもよいことを確認する。 9 Greeting (1 min.)	◇自律的な学びを進める児童を育てる評価 研究視点3 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【知識・技能】 「聞くこと」に関する活動を繰り返し行うことを通して、自分の一日について話すための語句や表現に慣れ親しんでいる。 </div>
◇授業の見所・本時で願っている児童の姿 ○日課に関する語句や表現を繰り返し聞いたり使ったりすることによって慣れ親しんでいる姿 (5・6・7) ○タブレット端末(iPad)と授業支援クラウドサービス (ロイロノート・スクール) を活用し、個別または協働で学習することにより、語句や表現に慣れ親しんでいる姿		

4 授業の実際

自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫

自信をもってコミュニケーションを図るためには、語句や表現等を実際のコミュニケーション場面で使うことが大切です。本時では、以下の2点の活動を設定することにより、自信をもってコミュニケーションを図る児童を育てることとしました。

① 語句や表現に慣れ親しむための毎時間の言語活動

「Let's listen 2」では、聞き取った情報の誤りに気付く「Doubt game」を取り入れました。＜No.1＞では、「Let's Try! 2」の「This is my day.」の登場人物であるKazuの一日、＜No.2＞と＜No.3＞では、JTEとHRTの一日を話しました。＜No.1＞では、「This is my day.」の内容との整合性を考えながら聞き取る姿が見られました。＜No.2＞と＜No.3＞では、日常的に関わりのあるJTEとHRTについて知っている情報との整合性を考えながら聞き取ったり、音声似た語句（I take out the garbage/garage/cabbage.）の、異なる部分に着目して聞き取ったりする姿が見られました。正誤を判断する目的をもたせることで、意味のある文脈で語句や表現に慣れ親しむ言語活動が展開できました。

② 語句や表現に慣れ親しむことを支えるICT機器の活用

「Let's listen 1」では、ALTが読む「This is my day.」を聞き、その内容に合った絵カードをタブレット端末上で選びながら話のおおよその内容を捉える活動を取り入れました。絵カードそのものや選択肢を設定したカードのパターンをデータ化して活動に取り入れ、インプットの量やバリエーションを増やすことで、語句や表現に十分に慣れ親しむことができました。

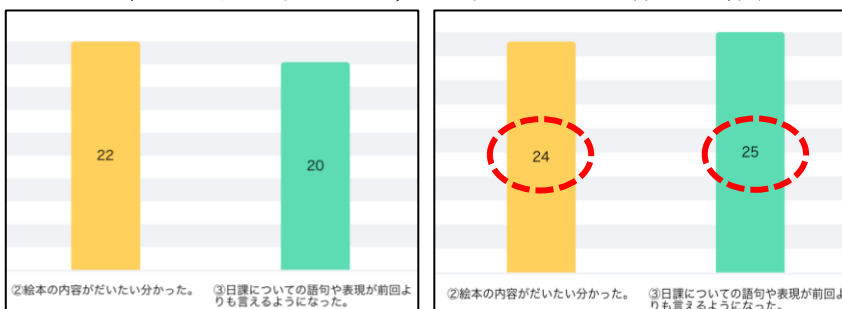
「Activity」では、慣れ親しんできた表現をアウトプットする場として、実際の自分の一日を話す練習の時間としました。データ化したカードは容易に操作できるため、自分が表現できそうなカードを入れ替えながら練習する姿が見られました。HRTやJTE、ALTが適宜個別の指導に当たりましたが、表現したいことは決めているものの、どのように表現したらよいか分からない児童もいました。



【Activityに取り組む児童】

自律的な学びを進める児童を育てる評価

本時も含め、単元を通して学習の振り返りにICTを活用しました。選択項目については、容易にグラフ化して提示するため、必要に応じて全体で共有することができます。本時では、「Today's goal」を確認する際に、語句や表現への慣れ親しみが増していることを示すグラフ（絵本『This is my day.』の内容の大体が分かった。」「日課についての語句や表現が前回よりも言えるようになった。」）を提示しました。



【本時で示した前時までの振り返りの集計結果の一部】

「Today's goal」を確認する際に、語句や表現への慣れ親しみが増していることを示すグラフ（絵本『This is my day.』の内容の大体が分かった。」「日課についての語句や表現が前回よりも言えるようになった。」）を提示しました。

IV 2年次研究の成果と課題

2年次研究では、「自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫」と「自律的な学びを進める児童を育てる評価」を重点として研究を進めてきました。

1 研究の成果

- 語句や表現に慣れ親しむ学習活動を言語活動化する視点で見直して設定することにより、意味のある文脈で語句や表現に慣れ親しむ活動を展開することができました。
- ICT機器の活用により、インプットの量やバリエーションを増やすことができ、語句や表現に慣れ親しむことを支える手立てとすることができました。
- 振り返りを瞬時にグラフ化して共有することにより、自己の学びの成果を実感したり、学習活動への意欲をもたせたりすることができました。

2 今後の課題

- ICT機器の効果を最大限に生かすために、語句や表現の音声データや実際のコミュニケーション場面の様子を撮影した動画等も、個別の学びや協働的な学びの中で活用しながら、アウトプットにつなげていけるようにする必要があります。
- 振り返りの蓄積や共有の方法として、個人内でのグラフ化が容易なツールを活用したり、前時で見られた具体的なよい姿を取り上げたりするなど、児童が自己調整を図りやすくする必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 文部科学省 開隆堂 平成29年7月
- 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 文部科学省 平成29年6月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
国立教育政策研究所 東洋館出版社 令和2年6月
- 初等教育資料No.1004「特集Ⅱ 新学習指導要領における指導のポイント」
文部科学省 東洋館出版社 令和3年2月
- 平成29年版小学校新学習指導要領ポイント総整理 外国語
大城 賢 編著 東洋館出版社 平成29年10月
- 平成29年改訂小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語
ぎょうせい 菅 正隆 編著 平成29年11月
- 英語教育 Vol.68 No.13「第1特集 新課程で変わる評価を理解する」
大修館書店 令和2年3月
- 英語教育 Vol.69 No.2「第1特集 学習・指導の振り返り」
大修館書店 令和2年5月
- 英語教育 Vol.69 No.12「第1特集 評価のお悩みに答えるQ&A」
大修館書店 令和3年2月
- 初等外国語教育 卯城祐司 編著 ミネルヴァ書房 平成30年3月
- なぜ、いま小学校で外国語を学ぶのか 直山木綿子 監修 小学館 平成31年3月